



住民の期待に応えた「北部医療の確保」になっているか？！

「公的医療の保障を」あきらめない！！



昨年9月からキセラでは、市立総合医療センターが本格稼働し、北部では民設民営の川西リハビリテーション病院が4月からオープンしました。

北部医療を確保するためと内科・小児科、休日年末年始の診療がスタートしましたが、中々市民には知られていません。(表①参照)

また、「開業医」として利用できる期待していた方からは、「発熱時、断られた」「予防接種はやつてもらえない」など様々な声が聴こえてきます。市の責任で誘致、医療の確保がなされるのではないかと考えていましたが、どうもそうではなさそうです。

川西リハビリテーション病院の内科一診は、あくまでも晴風園の直営。

小児科二診(医師1人体制)は、川西市の要請を受けて地域医療連携法人・協和会から医師派遣。川西市が単独で補助を出します。

日祝・年末年始は、川西市と猪名川町の要請を受けて医師会より医師派遣(交代制)が行われ、猪名川町が1日当たり22160円の負担、年末年始は倍の負担。残りは川西市の負担となります。

市の公的医療の確保・保障がほとんど

表① 患者数

患者数(人)	4月	5月
小児科	15	38
休日	5	17

川西リハビリテーション病院は、民設民営のため、内科の受診患者数は教えてもらえず。市から補助金を出している小児科・休日診療の受診患者数だけ明らかに。

曖昧になっている、北部医療の維持のためと言っていたにも関わらず、いずれ手放す算段ではないか？と案じるのは私だけでしょうか。

住民がかかりつけ医として利用したいと期待してきたように、川西リハビリテーション病院の医療を拡充するべきではないか、と求めましたが、「拡充する立場ではない。その必要はない。」との答弁。市は、病院の統廃合計画を進める時は良いことばかり言いましたが、現状は厳しいものがあります。

その上、6月議会に、「川西市応急診療所の設置及び管理に関する条例」廃止の議案が提出されています。本条例では、診断書(2000円〜4000円)や証明書(800円〜1500円)の使用料及び手数料が規定されていますが、これらが廃止、診断書等の値段は川西リハビリテーション病院に委ねられることとなります。

また、条例施行規則で、診療時間や使用料等の減免・免除規定などが決まっていますが、これも委ねることとなります。

「B病院で診断書を出してもらったから3300円だったのに、総合医療センターは5500円で驚いた」という声が聴こえます。案じていた通り、指定管理者制度導入や民営化は、市民負担

が増えることと直結していきそうです。6月28日日本会議の結果は、後日、報告させていただきます。

4月から、市職員が、協和会(総合医療センター)へ、2年間の研修派遣。「安定した病院経営ができていく法人への研修。新たな企画・立案、今後の医療政策を進めるため」としていますが、市民のために還元してほしいものです。

また、元々の計画では、協和会が担うとしていた、北部医療の確保は、総合医療センターと一体的に行われる予定でした。それが反故にされ、市が、別途補助金を入れることとなったのですから、今後も注視する必要があります。

山下駅前急病センターにはじめ、シャトルバス運行をはじめ、ことごとく裏切られてきた北部医療の確保。私(黒田)は、皆さんから聴かせて頂く声や願いをしっかりと受け止めて、これからも粘り強くがんばります。引き続き、よろしくお願います。



命に関わる「マイナンバーカード保険証」への切り替え止めろ！

「マイナンバー法等改定案」が衆議院を通過、参議院で審議。全国から、問題点がどんどん指摘され続けているにも関わらず6月2日に強行可決されてしまいました。

6月7日の衆議院厚生労働委員会において、有効な本人確認がされない時の医療費の負担を10割にするのか、もしくは、誰がその差額に責任を持つのかなど議論されましたが、厚労省保険局長は医療機関と調整中で具体的に言えないとしているなど法整備の矛盾や未熟さが明らかです。

「マイナンバー保険証」で、別人の情報7312件(2021年10月~2022年11月)もあったことが明らかになる。国民皆保険制度の根底をくつがえす「申請制度」の導入(カードを作る、保険証をつくる、資格確認書もらうなど)で無保険者がでてくるのではないかと、手続きに手間がかかるなど国民から医療を命を奪うことにつながるのではないかと危惧する声が増え続けているのも当然です。

後から後から明らかにされる問題、6月4日 JNN 世論調査でマイナンバーの活用不安であると72%の方が答えている現状。12日の ANN ニュースでは、不安を感じるが76%、マイナンバーカードと保険証の一体化反対が54%と報じら

れています。

マイナンバーカードと保険証の一体化、「マイナンバー保険証」の強行、紙の保険証廃止はやめるべきだと市から強く意見を述べるべきだと求めましたが、「国会で可決されていること、全国で問題が起こっていることは認識しているが、国が事務的な事項を精査しているので、進めていく」との答弁でした。

マイナンバーカードを作るのは任意、個々人の申請によるもの。保険証を作らない個人の「資格確認書」も申請。今までの国民皆保険制度の根幹を揺るがす大改悪。紙の保険証で何ら不都合なく使えてきた保険証をなくす必要がどこにあるのでしょうか。

高齢者施設などでは、マイナ保険証はパスワードの管理など課題が多すぎて預かれない。障がいを持った方の中には機械の操作ができない、人工呼吸器などをつけた方は顔認証ができないなど、様々な問題点が指摘され続けています。「決まったから」ではなく、命に関わる保険証。医療を奪うな！紙の保険証廃止やめろ！の声をあげていきましょう！真の誰ひとり取り残さない政治を！

川西市でも社会保険で2件の不具合

「迷子の年金」覚えています？

マイナンバーカードに何でもくっつけて失くしたらどうなる？

